

IEC/TC40（電子機器用コンデンサ及び抵抗器） 韓国・濟州島會議の報告

IEC/TC40の概要

TC40（電子機器用コンデンサ及び抵抗器）は、TC40内規格の整合化のため、サブコミティ（SC）を設置せず、一つの技術委員会（TC）で審議する形をとっています。その組織体系及び規格体系は、図1のとおりです。

韓国・濟州島會議の概要

今回のIEC/TC40の會議は、韓国・濟州島にて5月31日から6月2日まで、2つのメンテナンスチーム（MT）會議、2つのワーキンググループ（WG36及びWG39）會議及び2つの部門（Part C & Filter及びPart G & R）會議が開催されました。

この會議には、日本・アメリカ・イギリス・ドイツ・オランダ・フィンランド・スウェーデン及び韓国



写真1. 日本からの参加者

の8ヶ国から、26名が参加しました。日本からは、村田製作所・日本ケミコン・KOA・アルプス電気・ニチコン・太陽誘電・ルビコン・パナソニックエレクトロニックデバイス・松下電器産業・住友スリーエムとJEITA事務局から、合計11名が参加しました。

(1) WG36會議（5月31日）

表面実装部品テーピングは、各国からの提案文書の採否が技術的な観点から審議されました。日本代表団の意見を補足する図面提示が功を奏して、殆どが認められました。

極小部品の表面実装部品のテーピングに関連して、テープ幅=4mm、製品間ピッチ=1mmのエンボスキャリアテーピングについて、日本から新規提案したことを紹介しました。

日本・アメリカ・ドイツ・オランダの4ヶ国が参加表明し、これらを含めた規格体系が今後の審議対象となりました。この他、ラジアルテーピング及び半導体用トレイの外形の測定方法を日本から改正提案したことを紹介しました。

(2) WG39及びMT 60384-1會議（5月31日）

WG39では、IEC 60384-1（固定コンデンサ品目別通則）とIEC 60115-1/EN 60115-1（固定抵抗器品目別通則）の整合化を目指した審議がなされました。日本で事前検討した日本案をコンベナ（WG主査）に事前に送付しておいたため、日本案の殆どが採用されました。この中で、固定抵抗器に記載の技術認証（TA）が追加されることになりました。WGの方向付けの文書を関

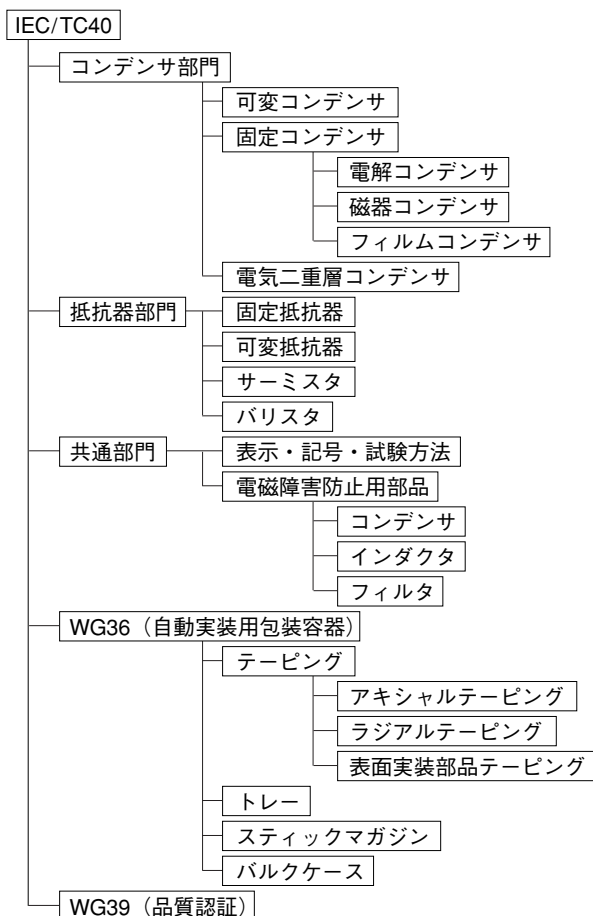


図1. TC40の組織体制及び規格体系

(社) 電子情報技術産業協会 受動部品標準化委員会



写真 2. TC40/WG36の会議風景

係各国に送付し、コメントを求めることになりました。

WG39に引き続き、MT 60384-1会議が開催され、同様に日本案を元に審議がなされました。その結果、その殆どが採用されましたが、論点が多かったため、終了がPM7:00を超える長時間の会議となりました。

(3) TC40 Plenary Part C & Filter会議 (6月1日)

日本からの新規7提案(導電性固体電解コンデンサ及び電気二重層コンデンサ)は順調に進み、最終段階(FDIS)とすることが承認され、制定を待つだけとなりました。

また、その他の文書も次の段階への進展が確認されました。

先日実施されたWG39会議及びMT 60341-1会議の結果が承認されました。

日本から、リード線端子部品の低ESL測定方法を新規提案したことを説明しました。この提案のエキスパートに、日本・ドイツ・フィンランド及び韓国の4ヶ国が参加表明し、承認される予定となりました。

SMDの低ESL測定方法を、6ヶ月以内に日本から新規提案することになりました。

(4) TC40 Plenary Part G & R会議 (6月2日)

表面実装抵抗器は、日本とドイツの間での審議が残っていましたが、今回、ドイツの委員が欠席したため、日本の委員で取りまとめ、この案をドイツに送付することとしました。主論点は、耐静電気、実装に関連する試験方法であることです。

TC108で新しい機器の安全規格が作成中であること



写真 3. TC40 Plenary Part C & Filterの会議風景

から、TC108とTC40(C&R)との間でWGを設置する提案がEUからあり、承認されました。フィルムコンデンサに関連し、EUメンバが新規に参画することとなりました。

韓国・済州島会議の成果と課題

今回も、日本の提案による事項を中心に審議されました。また、関係者による資料の準備が整っていたことから、日本からの殆どの提案が承認されました。ただし、6ヶ月以内にSMDの低ESL測定方法の新規業務提案(NP)することになったため、これについてフォローする必要があります。

今回は、フィンランドから招致の提案があり、2007年6月25日から6月28日にヘルシンキで開催の予定となりました。2008年は、5月中旬に日本で開催の予定としています。

今回と同様に万全の対応を取れるように、関係者の力を結集して準備していきたいと考えています。

TC40の幹事はオランダが継続し、次回会議から副幹事と交代することになりました。

TC40の韓国国内委員会の幹事は、韓国経済産業省(KATS:韓国技術標準院)の担当官が務めていることもあり、国を挙げての支援体制が整っていました。今回は、電気・電子機器の基幹部品の会議であり、今後、注力するとの意思が伝わってきました。このためか、会場も会員制のホテルであり、非常に周囲の環境がよい静かな会場でした。